

津波がここまで

宝永4年(1707)10月4日、東海、南海、四国沖にわたる巨大地震が発生し、海岸を津波が襲いました。津波は海岸から離れたところにまで到達しました。徳島県阿南市と高知県香南市の例をご紹介します。

■八大神社の馬場まで(徳島県阿南市)

「野村家伝来記」によると、宝永4年(1707)10月4日午前10時頃より大地震が起こり、11時頃におさまりました。大地が割れ、家や木が崩れ、高い山から大石が落ちて、人々は生きた心地もしませんでした。正午頃に、大波が打ち寄せるので山へ逃げようという声が聞こえてきました。ほどなく川には白波が立ち、大波が見えたので、人々は右往左往しながら山へ逃げ登りました。一番波は津峯の八大神社の馬場先まで、二番波は馬場中程まできて、海岸に近い戎山では波高は1丈(3m)余に達しました。津波は三番波で終わりましたが、地震は数日間断続しました。海上には津波により下福井、橘浦、答島村から流出した家々が満ちていました。<阿南市史編さん委員会編「阿南市史第2巻」1995年、徳島県史編さん委員会編「徳島県災異誌」1962年など>※海岸から八大神社までの距離は1kmほどです。



■若一王子宮の鳥居まで(高知県香南市)

「無題冊子」及び「大変記」によると、宝永4年(1707)10月4日は、空は晴れ四方に雲なく、その暑さは耐え難き極暑のごとくであったと言い伝えられています。正午頃、ゆらりゆらりと静かに地震が起こり、その後次第に揺れだし、家や蔵が崩れ、地割れが起こり、小砂、水などが湧き出してきました。しばらくして揺れが何度となく起こり、津波が打入り、人々は叫び、大急ぎで近辺の山々へ逃げ走りました。津波の潮先は徳王子の若一王子宮の花表(鳥居)まで達しました。津波は翌朝までに11回に及び、岸本、赤岡など海岸部は壊滅的な被害を受けました。土佐国中の被害は、死者2千余人、流家1万1,170軒、潰家4,860軒、破損家1,742軒、破損船768艘等となりました。<香我美町史編纂委員会編「香我美町史上巻」1985年など>※海岸から若一王子宮の鳥居までの距離は2kmほどです。

